

さて、勇者クンとディアーナが気持ちよくなれるようにお膳立てしてあげなきゃいけないわね。
拘束魔法をかけてあげるわ…

うんうん、ディアーナは魔族の呪文もちゃんと使えるみたいね。
ふふっ、ニンゲンの体も捨てたもんじゃないわ

特にこの体はね、神族の血統みたい。
ディアーナは隠していたみたいだけど
勇者クンは気づいていたのかしら

そんなに驚かなくていいじゃない。
彼女が僧侶というのは嘘で、月の女神の加護を持つ神官よ。
サキュバスにとっては天敵にも等しい厄介な存在ね…

勇者の相手だけでも大変なのに、
ディアーナみたいなのがサポートに付いてたら私も勝てないはずね…
でもそれが今は私の思うままになりつつある

ふふっ、うふふふ…
なんて愉快なんでしょう！あはははははははは！

このまま快樂で魂を汚染しながら時間を重ねていけば、
いずれディアーナは完全に魔族に堕ちる…
でも今は健気に、私からの支配を必死に抗っている

は？この体を返せ？
なぜ？せっかくの好機を手放すわけがないじゃない

ディアーナの体はディアーナのもの…
ふむ、なるほど。いちおう筋は通ってるわね。
じゃあ賭けをしてみない？

一定時間、この体の支配権を彼女に戻すわ

その間に勇者クンの力と彼女の力で、この体から私を追い出してみて？
やり方は教えないけどね

あなたが賭けに負けた場合、私にもメリットがあるの。
簡単に言うなら私がこの体を支配しやすくなる。
ハイリスクハイリターン…あなた達にとっても、悪くない話でしょう？

まあ疑われるのは仕方ないですけどこれはただのゲームよ
とりあえずディアーナに代わるわ

うあっ！くっ、ゆ、勇者様…？

あの、私達がどうしたらいいかは…知ってます。
入れ替わる間にクイーンが教えてくれました
は、はずかしいけど…私を抱いて欲しい、です…

勇者様と体を重ねて、心もひとつになって、
激しく愛されたらきっと…サキュバスの呪いから抜け出せる気がして

勇者様は、もしかして…はじめて？

えへへ、童貞クンなんだ…
そんなに見つめないで。恥ずかしいよお

じゃあ、私が上になるけど、優しくしてね。
わ、私だって初めてなんですからっ

私のおっぱい好きだよね…
よ、よかったらいっぱいなめて…？

んっ…んん…ふあ、ああ…ん、くう…あうん
はあっ…ああ…あっ…ん

あんっ！そん、な…乳首、ダメエ…
はあっ…ああ…あっ…ん、ふあああ…あっ

きゃっ、同じところばかりペロペロしちゃあ…
ああああ、すごい、濡れ、ちゃう…

はあ、はあ、はあ…ね、ねえ、そろそろ…勇者様の欲し…

ううん、私がおむかえしてあげるね。
勇者様のはじめて、私の中で気持ち良くしてあげる

ふわ…おちんちんすごい…怒ってるみたい。
ちゃんと入るかな…

あ…入って、来る…
ひだがめくれちゃう、わ、わたしの…あはあああっ！

は、あ…はあ、はあ…あつい…でも、き、きもちい…い
もっとおちんちん…奥まで、ちょうだい…

うっ、んん…あふう、ふう…んん…くう…
全部…入った…？じゃあ勇者様の代わりに動いてあげる。
いっぱい気持ち良くなってね…？

んっ…あんっ…ううん、ふあっ、ああんっ…ふああ…
はあ、はあ…ふうん、あっ…あんっ

んっ…んん…ふあ、ああ…ん、くう…あうん…！
はあっ…ああ…あっ…ん、ふあああ…あっ、ああっ…！

えっ、も、もう出ちゃうの？いいよっ、このまま出してっ？出してくださいっ…

んんんっ、ふあっ…んあっ…あっあっあっあうんっ！

んっ、あっあっ…あっ、ああ、あっあっあっ…んんんう

—————ツツツツ！！！！

はあ、はあ、はあ、勇者様…私の中で、すぐイっちゃいましたね…

ううん、初めてだった訳ですし、早いのは仕方ないです。

だから、気にしないで…？

ふあ、あっ…はあ…あ！まだ出てる…

すごい…ビク、びくってえ…射精されると、熱くて、気持ちいい…

これできっとあの悪魔の呪いなんて…

勇者様がいっぱい…

私の中にいるんだ、ね…ふふ、うふふふ♪

そんなに気持ちよかった？

満足してくれたならうれしいな。でもね…

「この賭けは私の勝ちよ、勇者クン

あはははははは！バカ正直なのも困りものね！

もしかして今頃気づいちゃったのかな？

別にいいけど。もう手遅れだから

勇者クン、あなた…

神に仕える無垢な娘を自分から犯してくれたよねえ？

厄介な女神の系譜を断ち切ってくれてあ・り・が・と♪

神官はね、処女でなければ女神からの加護が大幅に薄れちゃうのよ。

もしかしてそんなことも知らなかったのかなあ？

さあて、反撃しちゃおうかな。

勇者クンが精を注いでくれたおかげで魔力も少し回復したわ。

女神の加護から彼女を解き放ってくれたお礼に思う存分、キミのことを感じさせてあげる